

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ	チーム名	ハーモニー
タイトル	生産性を最大化させる人間と AI の分業の仕方		
テーマ群	e) 産業・企業 f) 歴史・思想		
メンバー	廣瀬健人、香取美帆、赤塚勇斗、有川海斗、大橋悠生、森口颯羽		
研究計画内容	【研究背景】 どんな仕事に就くとしても、AI を使いこなすことが当たり前になる——そんな時代がもう目の前に来ていると感じています。事務職であれば業務の効率化、企画職なら膨大なデータの分析、そして教育現場では一人ひとりに合った学びの提供など、分野ごとに AI の活用方法は異なりますが、共通して言えるのは「人と AI の役割分担」が鍵になるということです。だからこそ、いまのうちに「人間が得意なこと」と「AI に任せるべきこと」の違いをきちんと理解し、それぞれの強みをどう活かせばうまく協働できるのかを考えることが、これからの働き方に直結すると強く感じています。そうした問題意識から、人と AI がよりよく共存できる方法を探るために、本研究に取り組むことを決めました。 【研究内容】 一般的に、AI の利用によって生産性が向上するといわれているが、AI と人間でどのように業務を分担するのが、生産性の最大化にとって適切であるのかを明らかにしたいと思います。 そのため、まず、AI の得意分野について調査します。 一方で、AI 利用による失敗や事故の事例をいくつかあります。それらの事例を挙げることで、AI ではなく人間が必要とされる分野についても考察します。 【期待される効果】 本研究により、AI と人間の役割分担を明確化することで、業務効率化や意思決定の質の向上が期待できます。さらに、個々の強みを最大限に活かした協働により、創造性や生産性の向上が見込まれます。教育現場では、一人ひとりに最適化された学びの提供が可能となり、学習成果の向上にもつながります。また、将来的には、AI を効果的に活用できる人材の育成や、さまざまな分野での働き方改革への貢献も期待されます。 【参考文献】 ・「ICT の進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」 https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h28_03_houkoku.pdf ・「低速自動運転車両事故」名古屋大学 低速自動運転車両事故検証委員会 20191206_report.pdf ・「近年の自動運転車(LV2)の公道実証実験における事故事例について～原因の分析と対策及び分析場の課題～」交通事故総合分析センター https://mymobi.mirai.nagoya-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/05/20221220WebinarMaterial_2-1Iwata.pdf ・「歩行者との接触事案の原因究明及び再発防止対策について」静岡県交通基盤部 https://www.pref.shizuoka.jp/res/projects/default_project/page/001/028/678/jiko2022.pdf ・「遠隔監視のみ(レベル4)自動運転サービスの実現に向けた取り組み」国立研究開発法人産業技術総合研究所 https://www.road-to-the-l4.go.jp/activity/theme01/pdf/20240228_theme01.pdf		